

稲沢市コミュニティバス
及びコミュニティタクシー
利用状況等報告書【改訂版】

平成 24 年 7 月
市長公室地域振興課

目 次

1	コミュニティバス事業の概要及び経緯	1
2	コミュニティバスの利用状況	1
(1)	コミュニティバスの1日当たり及び1便当たりの利用者数	1
(2)	コミュニティバスの曜日別利用者数	5
(3)	コミュニティバスの追加便運行状況	6
3	コミュニティタクシーの利用状況	8
4	試行運行期間と本格運行開始後におけるコミュニティバスの各種比較	11
(1)	各運行路線の1便当たりの利用者数の比較	11
(2)	各運行路線の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の比較	14

※ 改訂の主旨

第16回 稲沢市地域公共交通会議（平成24年3月21日開催）において本市コミュニティバス及びコミュニティタクシー利用状況等の報告に用いた『資料番号1』に、各運行路線の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の算出方法に誤りがありました。

そのため、「4 (2) 各運行路線の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の比較」における記述、グラフを修正するものです。

1 コミュニティバス事業の概要及び経緯

稲沢市地域公共交通会議で協議した『コミュニティバス運行事業計画』に基づいて、平成20年7月1日から平成22年6月30日までの2年間、2路線（東西幹線、南北幹線）を乗車定員9人の運行車両3台（東西幹線2台、南北幹線1台）でコミュニティバスを、また、旧祖父江町区域内でタクシー車両によるコミュニティタクシーを試行運行しました。

同会議では、この期間における利用状況、乗降調査及び市民アンケートの結果を研究・分析し、『コミュニティバス運行事業計画』における課題と問題点を整理して、利便性の向上等を目的として運行路線、運行車両及び時刻表等の変更について協議検討を重ね、『同計画』の変更を行いました。

平成22年6月に中部運輸局から運行事業計画変更の認可を得て、平成22年7月1日から3路線4系統として祖父江・下津線（ふれあいの郷系統及び地泉院系統）を乗車定員14人の運行車両2台で、平和・千代田線及び大里循環線を乗車定員9人の運行車両2台の計4台によるコミュニティバスと、旧祖父江町区域内のコミュニティタクシーによる本格運行を開始し、1年8か月が経過しています。

この『報告書』は、平成22年7月1日（木）から平成24年2月29日（水）までの期間におけるコミュニティバス並びにコミュニティタクシーの利用状況についてまとめたものです。

2 コミュニティバスの利用状況

(1) コミュニティバスの1日当たり及び1便当たりの利用者数

コミュニティバスの1日当たりの利用者数及び1便当たりの利用者数は、次ページの表のとおりとなります。

試行運行期間（平成20年7月1日～平成22年6月30日）における1日当たりの利用者数の平均は152人でしたが、本格運行を開始後の平成22年7月1日から平成24年2月29日までの1日当たりの利用者数の平均は193人（約27%増）となっています。

特に、本格運行2年目となる平成23年7月1日から平成24年2月29日までの1日当たりの利用者数は、209人（約38%増）となっています。

これは、祖父江・下津線と大里循環線の利用者数が1年目より増加したことによるものです。

コミュニティバス1便当たりの利用者数の平均の変化を路線別に比較してみると、東西幹線 上り（ふれあいの郷⇒下津市民センター）7.8人に対して祖父江・下津線 JR稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）9.7人（約24%増）、東西幹線 下り（下津市民センター⇒ふれあいの郷）8.0人に対して祖父江・下津線 祖父江方面（リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）7.5人（約6%減）となっています。

また、南北幹線は運行距離の短縮を図るために平和・千代田線と大里循環線の2路線

に分けたので、それぞれの路線と比較してみますと、南北幹線 上り（ヨシヅヤ平和店⇒国府宮駅）3.7人に対して平和・千代田線 市民会館・中央図書館行き 3.1人（約16%減）、南北幹線 下り（国府宮駅⇒ヨシヅヤ平和店）3.7人に対して平和・千代田線 千代田・平和方面 3.0人（約19%減）、南北幹線 上り・下りを合わせた 3.7人に対して大里循環線 7.1人（約92%増）となっています。

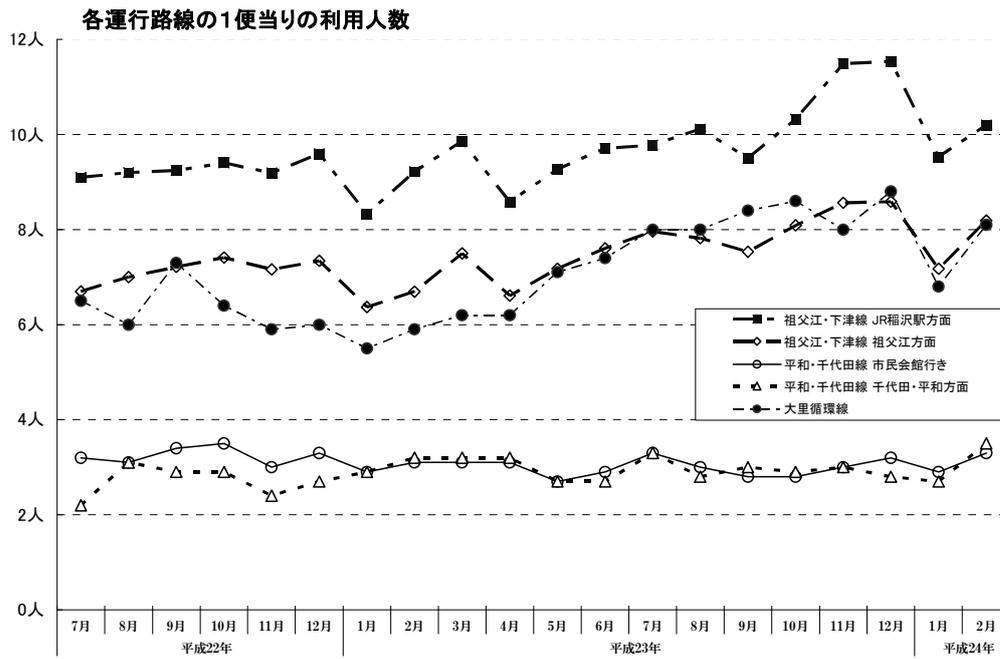
大里循環線は、運行路線の区間「アピタ稲沢店～市民会館・中央図書館」が祖父江・下津線と重複しており、この区間の利用者が多いため、南北幹線と比較いたしますと大幅な利用者数の増加となっています。

○ コミュニティバス路線別の利用者数

路線 月（ ） は運行日数	祖父江・ 下津線 （JR 稲沢 駅方面） 〔7便〕	祖父江・ 下津線 （祖父江 方面） 〔8便〕	小 計	平和・ 千代田線 （市民会 館行き） 〔4便〕	平和・ 千代田線 （千代田・ 平和方面） 〔4便〕	小 計	大里 循環線 〔6便〕	合 計	1日当 り利用 者数
平成22年 7月(26日)	1,649人	1,403人	3,052人	303人	252人	555人	1,008人	4,615人	178人
8月(26日)	1,672人	1,458人	3,130人	322人	324人	646人	940人	4,716人	181人
9月(24日)	1,553人	1,385人	2,938人	328人	280人	608人	1,054人	4,600人	192人
10月(25日)	1,646人	1,482人	3,128人	350人	285人	635人	954人	4,717人	189人
11月(24日)	1,544人	1,375人	2,919人	290人	229人	519人	855人	4,293人	179人
12月(23日)	1,545人	1,351人	2,896人	304人	247人	551人	832人	4,279人	186人
平成23年 1月(23日)	1,341人	1,172人	2,513人	267人	264人	531人	755人	3,799人	166人
2月(22日)	1,420人	1,178人	2,598人	277人	283人	560人	776人	3,934人	179人
3月(26日)	1,795人	1,560人	3,355人	323人	332人	655人	965人	4,975人	191人
4月(25日)	1,502人	1,322人	2,824人	306人	316人	622人	933人	4,379人	175人
5月(23日)	1,492人	1,321人	2,813人	250人	247人	497人	975人	4,285人	186人
6月(26日)	1,767人	1,582人	3,349人	298人	282人	580人	1,152人	5,081人	195人
7月(25日)	1,711人	1,592人	3,303人	330人	332人	662人	1,195人	5,160人	206人
8月(27日)	1,912人	1,689人	3,601人	320人	301人	621人	1,295人	5,517人	204人
9月(24日)	1,597人	1,446人	3,043人	271人	288人	559人	1,214人	4,816人	201人
10月(25日)	1,807人	1,618人	3,425人	284人	294人	578人	1,283人	5,286人	211人
11月(24日)	1,931人	1,644人	3,575人	289人	291人	580人	1,158人	5,313人	221人
12月(23日)	1,858人	1,580人	3,438人	296人	261人	557人	1,210人	5,205人	226人
平成24年 1月(23日)	1,534人	1,320人	2,854人	266人	247人	513人	944人	4,311人	187人
2月(23日)	1,642人	1,507人	3,149人	307人	322人	629人	1,116人	4,894人	213人
合 計	32,918人	28,985人	61,903人	5,981人	5,677人	11,658人	20,614人	94,175人	—
平 均	1,646人	1,450人	3,096人	300人	284人	583人	1,031人	4,709人	193人

○コミュニティバス1便当りの利用者数

年月	路線 祖父江・ 下津線 (JR 稲沢駅 方面) 〔7便〕	祖父江・ 下津線 (祖父江 方面) 〔8便〕	平和・ 千代田線 (市民会館 行き) 〔4便〕	平和・ 千代田線 (千代田・ 平和方面) 〔4便〕	大里循環線 〔6便〕
平成22年7月	9.1人	6.7人	3.2人	2.2人	6.5人
8月	9.2人	7.0人	3.1人	3.1人	6.0人
9月	9.2人	7.2人	3.4人	2.9人	7.3人
10月	9.4人	7.4人	3.5人	2.9人	6.4人
11月	9.2人	7.2人	3.0人	2.4人	5.9人
12月	9.6人	7.3人	3.3人	2.7人	6.0人
平成23年1月	8.3人	7.3人	2.9人	2.9人	5.5人
2月	9.2人	6.7人	3.1人	3.2人	5.9人
3月	9.9人	7.5人	3.1人	3.2人	6.2人
4月	8.6人	6.6人	3.1人	3.2人	6.2人
5月	9.3人	7.2人	2.7人	2.7人	7.1人
6月	9.7人	7.6人	2.9人	2.7人	7.4人
7月	9.8人	8.0人	3.3人	3.3人	8.0人
8月	10.1人	7.8人	3.0人	2.8人	8.0人
9月	9.5人	7.5人	2.8人	3.0人	8.4人
10月	10.3人	8.1人	2.8人	2.9人	8.6人
11月	11.5人	8.6人	3.0人	3.0人	8.0人
12月	11.5人	8.6人	3.2人	2.8人	8.8人
平成24年1月	9.5人	7.2人	2.9人	2.7人	6.8人
2月	10.2人	8.2人	3.3人	3.5人	8.1人
平均	9.7人	7.5人	3.1人	3.0人	7.1人



(2) コミュニティバスの曜日別利用者数

次の表は、平成22年7月1日から平成24年2月29日までの1日当りの利用者数を曜日別に示したものです。

3路線とも月曜日から金曜日までの利用者数には大差ありませんが、土曜日における利用者数と平日における利用者数の平均を比較しますと、祖父江・下津線ふれあいの郷系統の土曜日は約16%の減、地泉院系統は約27%の減であり、平和・千代田線は差が無く、大里循環線は約25%の減となっています。

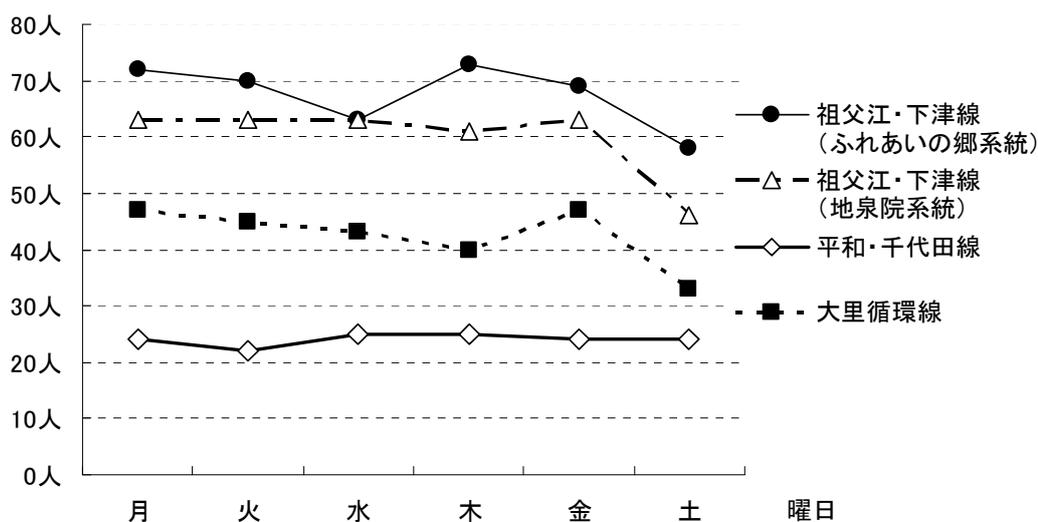
平和・千代田線以外の路線における土曜日の利用者数は、平日と比較して少なくなっています。

○ 曜日別1日当りの利用者数

曜日 \ 路線	祖父江・ 下津線 ふれあいの郷系統	祖父江・ 下津線 地泉院系統	平和・ 千代田線	大里循環線
月曜日	72人	63人	24人	47人
火曜日	70人	63人	22人	45人
水曜日	63人	63人	25人	43人
木曜日	73人	61人	25人	40人
金曜日	69人	63人	24人	47人
土曜日	58人	46人	24人	33人
平日の平均	69人	63人	24人	44人

次のグラフは、曜日別1日当りの利用者数を幹線別に示したものです。

曜日別1日当りの利用者数



(3) コミュニティバスの追加便運行状況

定員超過発生時に運行した追加便の状況は、7ページの表のとおりです。

追加便の運行台数は、1日当りに換算すると、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面が 0.3 台、同線 祖父江方面が 0.2 台、平和・千代田線 市民会館・中央図書館行きが 0.02 台、同線 千代田・平和方面が 0.004 台、大里循環線が 0.06 台と、試行運行期間における追加便の1日当りの運行台数（東西幹線上り 1.0 台、下り 1.2 台）と比べて大幅に減少し、恒常的に追加便が運行されていた状況は解消しました。

定員超過発生を解消を目的として乗車定員 14 人の運行車両を祖父江・下津線に導入したこと、また、利用者が多い区間「アピタ稲沢店～市民会館・中央図書館」を祖父江・下津線と大里循環線の路線で重複運行したことの効果が現れています。

なお、祖父江・下津線の平成 23 年 11 月と 12 月の追加便の運行台数及び利用者数が他の月より増加しているのは、荻須記念美術館で「特別展 生誕 110 年記念 荻須高德展」が開催（平成 23 年 10 月 29 日（土）～12 月 18 日（日））されたため、区間「国府宮駅～美術館・保健センター」の利用者が多かったことによるものです。

なお、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）の追加便の運行台数のうち「美術館・保健センター⇒国府宮駅」は、10 月が 3 台（同月の 60%）、11 月が 20 台（同 61%）、12 月が 11 台（同 58%）であり、同線 祖父江方面（リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）の追加便運行台数のうち「国府宮駅⇒美術館・保健センター」は、11 月が 11 台（同月の 61%）、12 月が 3 台（同 50%）となっています。

追加便の運行状況を分析しますと、運行が生じやすい便は、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面の第 3 便、第 4 便及び第 5 便、同線 祖父江方面の第 2 便となっています。

○ 各路線の追加便運行状況

()は 運行日数	祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面		祖父江・下津線 祖父江方面		平和・千代田線 市民会館行き		平和・千代田線 千代田・平和方面		大里循環線	
	台数	人数	台数	人数	台数	人数	台数	人数	台数	人数
平成 22 年 7 月(26 日)	3 台	8 人	0 台	0 人	4 台	12 人	0 台	0 人	2 台	4 人
8 月(26 日)	7 台	22 人	2 台	3 人	2 台	4 人	0 台	0 人	1 台	1 人
9 月(24 日)	5 台	14 人	4 台	10 人	1 台	1 人	0 台	0 人	3 台	4 人
10 月(25 日)	4 台	8 人	1 台	1 人	2 台	6 人	0 台	0 人	3 台	7 人
11 月(24 日)	7 台	26 人	4 台	11 人	0 台	0 人	0 台	0 人	1 台	2 人
12 月(23 日)	4 台	9 人	2 台	5 人	0 台	0 人	0 台	0 人	0 台	0 人
平成 23 年 1 月(23 日)	4 台	4 人	0 台	0 人	0 台	0 人	0 台	0 人	1 台	3 人
2 月(22 日)	2 台	6 人	0 台	0 人	1 台	1 人	0 台	0 人	0 台	0 人
3 月(26 日)	10 台	26 人	5 台	14 人	0 台	0 人	0 台	0 人	2 台	4 人
4 月(25 日)	3 台	4 人	2 台	5 人	1 台	2 人	0 台	0 人	0 台	0 人
5 月(23 日)	1 台	4 人	1 台	5 人	0 台	0 人	0 台	0 人	1 台	2 人
6 月(26 日)	8 台	22 人	1 台	1 人	0 台	0 人	0 台	0 人	1 台	4 人
7 月(25 日)	6 台	13 人	0 台	0 人	1 台	2 人	1 台	2 人	2 台	5 人
8 月(27 日)	9 台	22 人	8 台	22 人	0 台	0 人	0 台	0 人	1 台	1 人
9 月(24 日)	10 台	25 人	2 台	5 人	0 台	0 人	0 台	0 人	0 台	0 人
10 月(25 日)	5 台	13 人	8 台	15 人	0 台	0 人	0 台	0 人	3 台	9 人
11 月(24 日)	33 台	100 人	18 台	54 人	0 台	0 人	1 台	3 人	2 台	5 人
12 月(23 日)	19 台	52 人	6 台	15 人	0 台	0 人	0 台	0 人	3 台	7 人
平成 24 年 1 月(23 日)	3 台	10 人	2 台	4 人	0 台	0 人	0 台	0 人	0 台	0 人
2 月(23 日)	9 台	25 人	6 台	21 人	0 台	0 人	0 台	0 人	3 台	4 人
合 計	152 台	413 人	72 台	191 人	12 台	28 人	2 台	5 人	29 台	62 人
平 均 (1 か月当り)	7.6 台	20.7 人	3.6 台	9.6 人	0.6 台	1.4 人	0.1 台	0.3 人	1.5 台	3.1 人
平 均 (1 日当り)	0.3 台	0.9 人	0.2 台	0.4 人	0.02 台	0.06 人	0.004 台	0.01 人	0.06 台	0.1 人

3 コミュニティタクシーの利用状況

祖父江町地内で運行しているコミュニティタクシーは、コミュニティバスの運行路線変更及び運行便数増加に伴って、タクシー乗り場の新設・移設またはバス停留所への変更を行いましたが、タクシー乗り場数 12 か所は変更しておりません。

なお、タクシー乗り場と接続するバス停留所は、施設の休館日、利用者の安全面を考慮して「祖父江の森」から「祖父江支所」に変更しています。

平成 22 年 7 月 1 日から平成 24 年 2 月 29 日までのコミュニティタクシーの利用者状況は、次の表のとおりです。

1 か月当りの平均利用件数は、試行運行期間中の同件数 4.5 件から 1.3 件（約 71%減）と、より低調となっています。

これは、定期的な利用があったタクシー乗り場「中屋敷」、「長岡」、「神明津」、「中牧」を、バス停留所に変更したことが理由の一つであると考えております。

○ コミュニティタクシーの利用件数及び利用者数

年 月	利用件数	利用者数
平成 22 年 7 月	3 件	4 人
8 月	1 件	1 人
9 月	0 件	0 人
10 月	2 件	6 人
11 月	2 件	2 人
12 月	2 件	2 人
平成 23 年 1 月	0 件	0 人
2 月	0 件	0 人
3 月	4 件	8 人
4 月	0 件	0 人
5 月	2 件	2 人
6 月	2 件	2 人
7 月	1 件	1 人
8 月	0 件	0 人
9 月	0 件	0 人
10 月	1 件	1 人
11 月	0 件	0 人
12 月	2 件	2 人
平成 24 年 1 月	1 件	1 人
2 月	2 件	2 人
計	25 件	34 人
1 か月の平均	1.3 件	1.7 人

9～10 ページに掲載した表は、コミュニティタクシーの区間別利用状況を往路（各タクシー乗り場⇒停留所「祖父江支所」と復路（停留所「祖父江支所」⇒各タクシー乗り場）に分けたものです。

往路では「富士美ヶ丘」5件、「ナビタウン」2件、「馬飼」2件の利用があるものの、タクシー乗り場12か所のうち7か所では1件も利用が無く、更に平成23年6月以降は、すべてのタクシー乗り場で利用が無い状況が続いています。

復路も「大牧」9件、「馬飼」2件の利用があるものの、タクシー乗り場12か所のうち7か所では1件も利用が無い状況にあります。

今後、『運行事業計画』の見直しを行うに当たり、利用のあるタクシー乗り場をバス停留所に変更することも検討する必要がありますが、このような利用状況が続いた場合、コミュニティタクシー運行の継続についても検討すべき必要があると考えています。

○ コミュニティタクシーの区間別利用状況

往路（各タクシー乗り場⇒停留所「祖父江支所」）

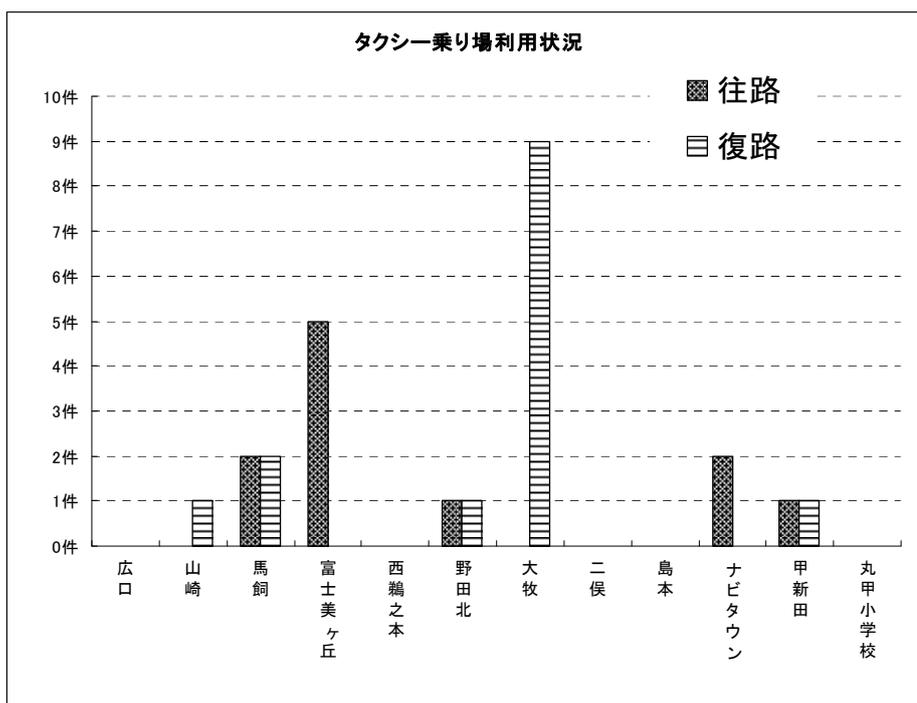
※（ ）は人数

	乗車停留所	利用件数	月 計
平成 22 年 7 月	富士美ヶ丘	1 件 (1 人)	2 件 (3 人)
	ナビタウン	1 件 (2 人)	
8 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
9 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
10 月	甲新田	1 件 (3 人)	1 件 (3 人)
11 月	ナビタウン	1 件 (1 人)	2 件 (2 人)
	富士美ヶ丘	1 件 (1 人)	
12 月	富士美ヶ丘	1 件 (1 人)	2 件 (2 人)
	富士美ヶ丘	1 件 (1 人)	
平成 23 年 1 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
2 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
3 月	馬 飼	1 件 (1 人)	3 件 (5 人)
	馬 飼	1 件 (3 人)	
	富士美ヶ丘	1 件 (1 人)	
4 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
5 月	野田北	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
6 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
7 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
8 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
9 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
10 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
11 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
12 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
平成 24 年 1 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
2 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
合 計	—	1 1 件 (16 人)	1 1 件 (16 人)

復路（停留所「祖父江支所」⇒各タクシー乗り場）

※（ ）は人数

	降車停留所	利用件数	月 計
平成 22 年 7 月	山 崎	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
8 月	大 牧	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
9 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
10 月	甲新田	1 件 (3 人)	1 件 (3 人)
11 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
12 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
平成 23 年 1 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
2 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
3 月	馬 飼	1 件 (3 人)	1 件 (3 人)
4 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
5 月	野田北	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
6 月	大 牧	1 件 (1 人)	2 件 (2 人)
	大 牧	1 件 (1 人)	
7 月	大 牧	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
8 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
9 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
10 月	馬 飼	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
11 月	—	0 件 (0 人)	0 件 (0 人)
12 月	大 牧	2 件 (2 人)	2 件 (2 人)
平成 24 年 1 月	大 牧	1 件 (1 人)	1 件 (1 人)
2 月	大 牧	2 件 (2 人)	2 件 (2 人)
合 計	—	1 4 件 (18 人)	1 4 件 (18 人)



4 試行運行期間と本格運行開始後におけるコミュニティバスの各種比較

(1) 各運行路線の1便当りの利用者数の比較

試行運行期間中の東西幹線は祖父江・下津線に、また、南北幹線は平和・千代田線と大里循環線に変更いたしましたので、各路線における平成20年7月1日の試行運行開始から1年目（7月1日から翌年6月30日まで。以下同。）と2年目、平成22年7月1日の本格運行開始から1年目と2年目（平成23年7月1日から平成24年2月29日まで）の利用状況の推移をグラフにより比較したものです。

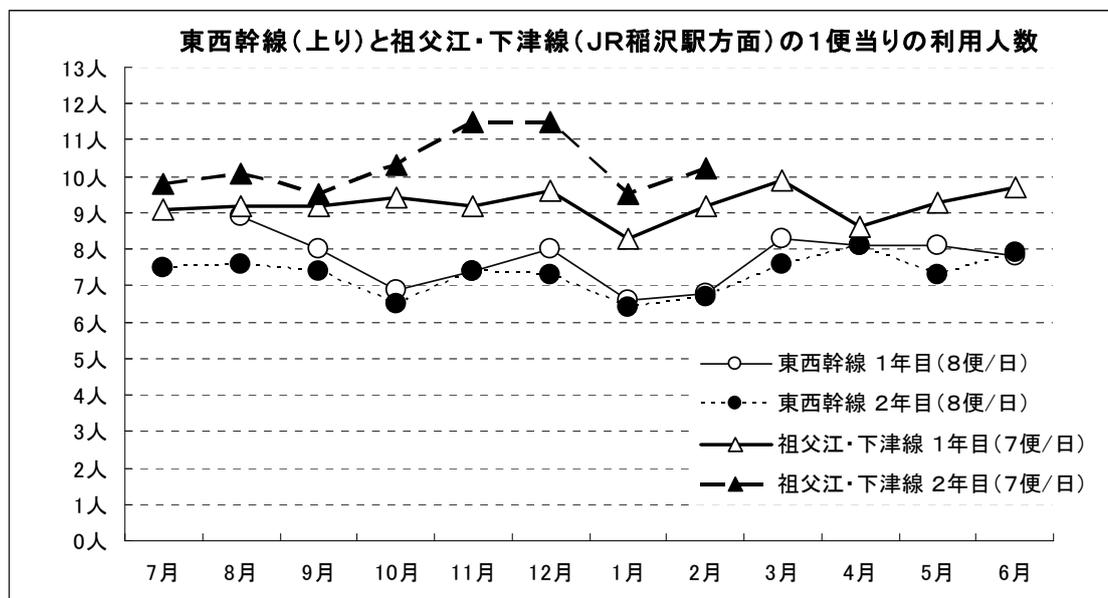
なお、すべてのグラフにおいて、路線の進行方向が同じものを比較し、無料運行期間であった平成20年7月の1か月間の利用者数は除いてあります。

グラフ1は、東西幹線 上り（ふれあいの郷⇒下津市民センター）と祖父江・下津線 JR稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）を比較したものです。

祖父江・下津線 JR稲沢駅方面は、東西幹線 上りの運行便と比べて1便減少しましたが、各月において東西幹線 上りを上回る利用者数が続いており、同線の2年目は1年目より増加しています。

東西幹線 上り、祖父江・下津線 JR稲沢駅方面とも冬季（12月～2月）にかけて利用者数は減少するものの、春季（3月～5月）になると増加傾向となっており、これは寒暖差による自然減が主な要因と考えています。

グラフ1

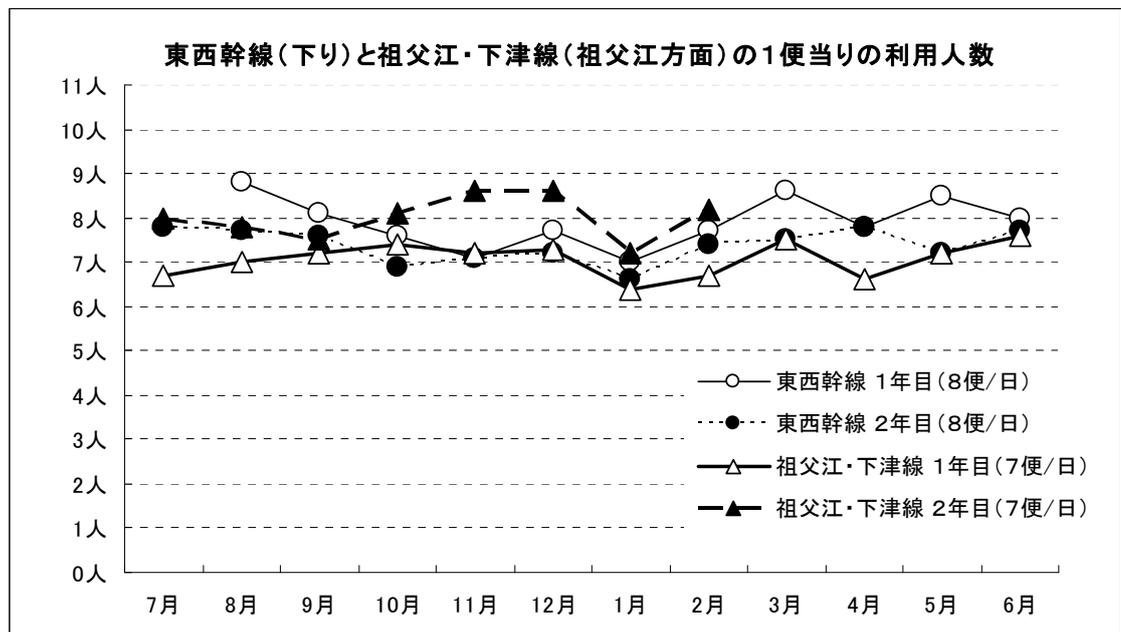


グラフ2は、東西幹線 下り（下津市民センター⇒ふれあいの郷）と祖父江・下津線 祖父江方面（リーフワーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）を比較したものです。

祖父江・下津線 祖父江方面は東西幹線 下りの運行便と同じ8便ですが、1年目の東西幹線 下り1年目の利用者数より減少していましたが、2年目の平成23年10月以降は利用者数が増加しています。

東西幹線 下り、祖父江・下津線 祖父江方面も、冬季（12～2月）にかけての利用者数は減少する傾向にあります。

グラフ2

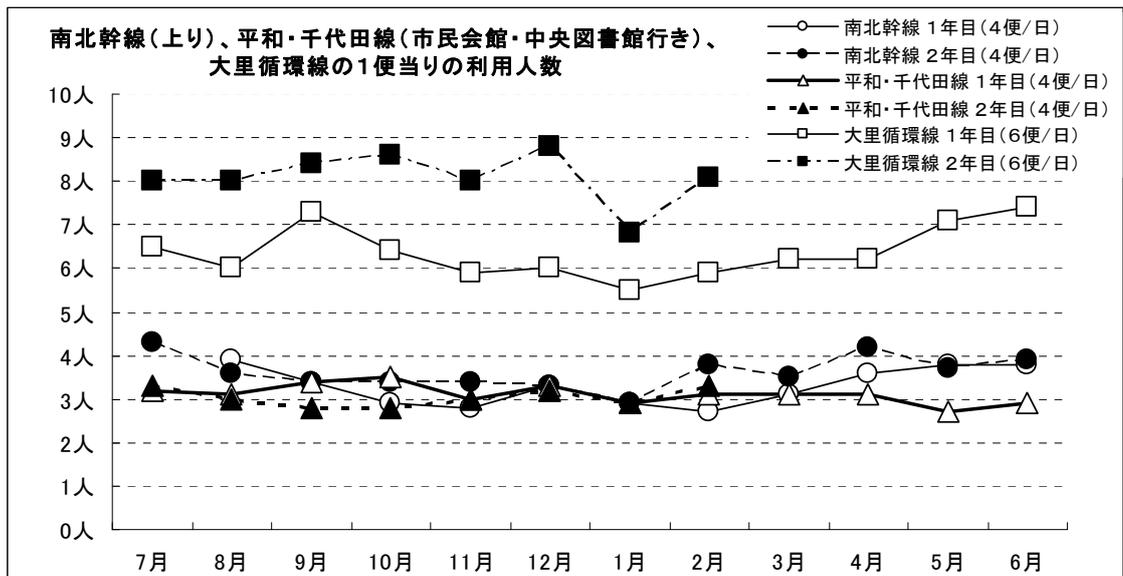


13 ページのグラフ3は、南北幹線 上り（ヨシヅヤ平和店⇒国府宮駅）、平和・千代田線 市民会館・中央図書館行き（平和支所・らくらくプラザ⇒市民会館・中央図書館）及び大里循環線を比較したものです。

南北幹線 上り及び平和・千代田線 市民会館・中央図書館行きの1日当りの利用者数は3人前後で推移しており、本格運行開始後も利用者の大幅な増加は見られません。

なお、大里循環線は、一部の区間（アピタ稲沢店～市民会館・中央図書館）を祖父江・下津線と重複して運行しているため、その区間における利用者が多くなっており、同線の2年目の利用者数が1年目より増加しています。

グラフ3

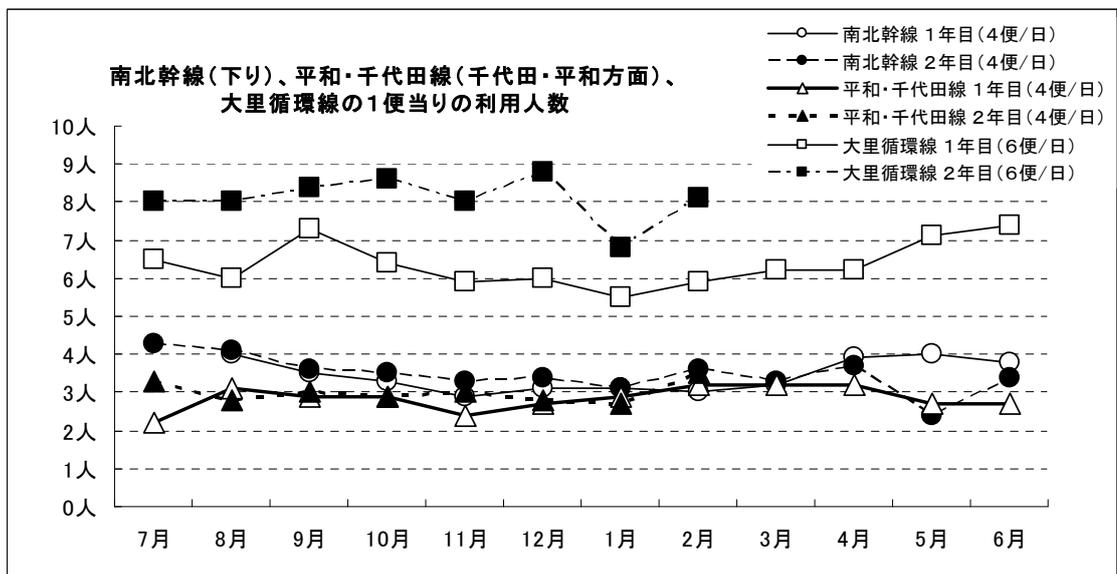


グラフ4は、南北幹線 下り(国府宮駅⇒ヨシヅヤ平和店)、平和・千代田線 千代田・平和方面(市民会館・中央図書館⇒ヨシヅヤ平和店)及び大里循環線を比較したものです。

南北幹線 下り及び平和・千代田線 千代田・平和方面の1日当りの利用者数も3人前後で推移しており、本格運行開始後も利用者の大幅な増加は見られません。

なお、利用者数は冬季と比べて春季(3月～5月)には増加傾向となりますが、平和・千代田線 千代田・平和方面の1年目は減少しておりますので、今後の利用状況の推移を注視してまいります。

グラフ4



(2) 各運行路線の利用者1人当りの運行経費における市負担額の比較

コミュニティバスの運行経費における市負担額は、運行事業者（名鉄西部交通株式会社）と契約した運行管理委託料から利用料金を差し引きした額となります。

そのため、利用者数が多いほど、市が負担する運行経費は少なくなります。

今後、限られた財源の中で利便性の向上を目指して『コミュニティバス運行事業計画』の見直しを検討していく上で、運行経費は重要な項目の一つと考えています。

前項と同様に、各路線における平成20年7月1日の試行運行開始から1年目（7月1日から翌年6月30日まで。以下同。）と2年目、平成22年7月1日の本格運行開始から1年目と2年目（平成23年7月1日から平成24年2月29日まで）の利用者1人当りの運行経費における市負担額の推移をグラフにより、比較をしております。

なお、平成20年7月の1か月間は無料運行期間であったため、当月の運行経費は除いてあります。

【利用者1人当りの運行経費の積算数値】

項目	金額	備考
東西幹線	1日1台当り 40,400円	平成20年7月1日～平成21年3月31日
	1日1台当り 41,000円	平成21年4月1日～平成22年6月30日
南北幹線	1日1台当り 40,400円	平成20年7月1日～平成21年3月31日
	1日1台当り 47,600円	平成21年4月1日～平成22年6月30日
祖父江・下津線 ふれあいの郷系統	1日1台当り 43,800円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 44,500円	平成23年4月1日～平成24年2月29日
祖父江・下津線 地泉院系統	1日1台当り 42,900円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 43,100円	平成23年4月1日～平成24年2月29日
平和・千代田線	1日1台当り 39,500円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 38,900円	平成23年4月1日～平成24年2月29日
大里循環線	1日1台当り 38,500円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 38,000円	平成23年4月1日～平成24年2月29日

大里駅乗り入れ 構内営業料	1月あたり 8,453円	平成20年8月1日～平成22年6月30日は、南北幹線の運行経費に計上 平成22年7月1日～平成24年2月29日は、大里循環線の運行経費に計上
国府宮駅乗り入れ 構内営業料	1月あたり 24,000円	平成22年7月1日～平成24年2月29日において、3路線2系統の運行経費に按分して計上
追加便	距離制運賃	追加便を運行した路線の運行経費に計上

グラフ5は、東西幹線 上り（ふれあいの郷⇒下津市民センター）と祖父江・下津線 JR稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）の市負担額を比較したものです。

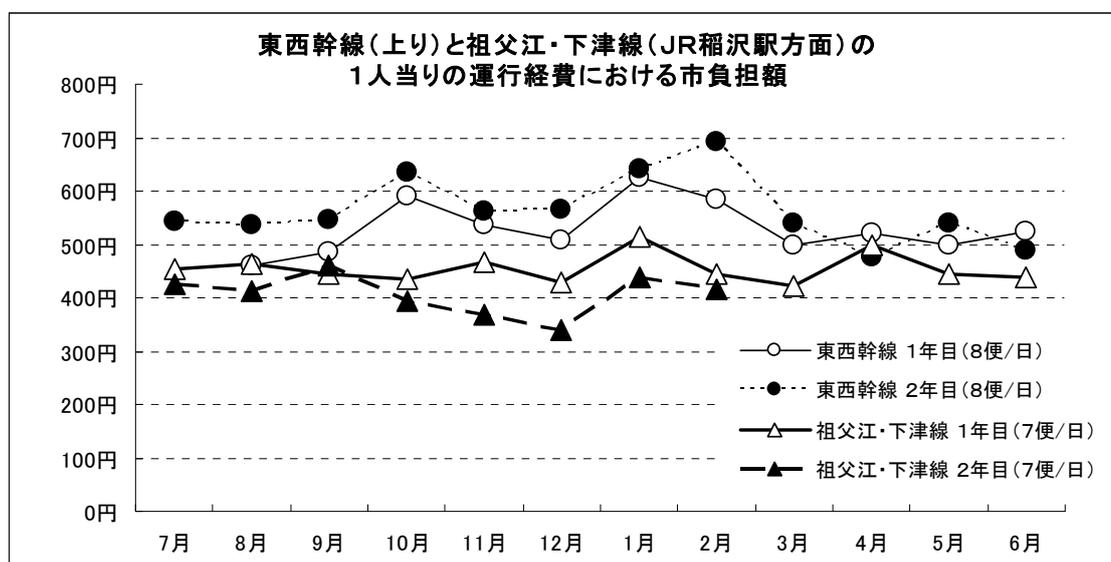
東西幹線 上りの市負担額は、運行1年目の平成21年1月が625円と最も高く、同年2月と平成20年10月を除いた他の月は、460円～540円前後で推移しています。

同線の2年目においては、平成22年2月の693円を最高額として、同年1月が642円、平成21年10月が635円と、600円を上回りましたが、他の月は530円～560円前後で推移しています。

祖父江・下津線 JR稲沢駅方面は、東西幹線 上りを上回る利用者数が続いていることから、1日1台当りの運行経費が東西幹線より増額（6～10%）となったにもかかわらず、市負担額は平成23年1月の515円（最高額）、同年4月の499円を除いて、その他の月は、東西幹線より少額の430円～460円前後で推移しています。

また、同線の2年目においては、利用者数の増加により、平成23年10月が393円、11月が368円、同年12月が340円と、400円を下回る月が3回あります。

グラフ5



グラフ6は、東西幹線 下り（下津市民センター⇒ふれあいの郷）と祖父江・下津線 祖父江方面（リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）の市負担額を比較したものです。

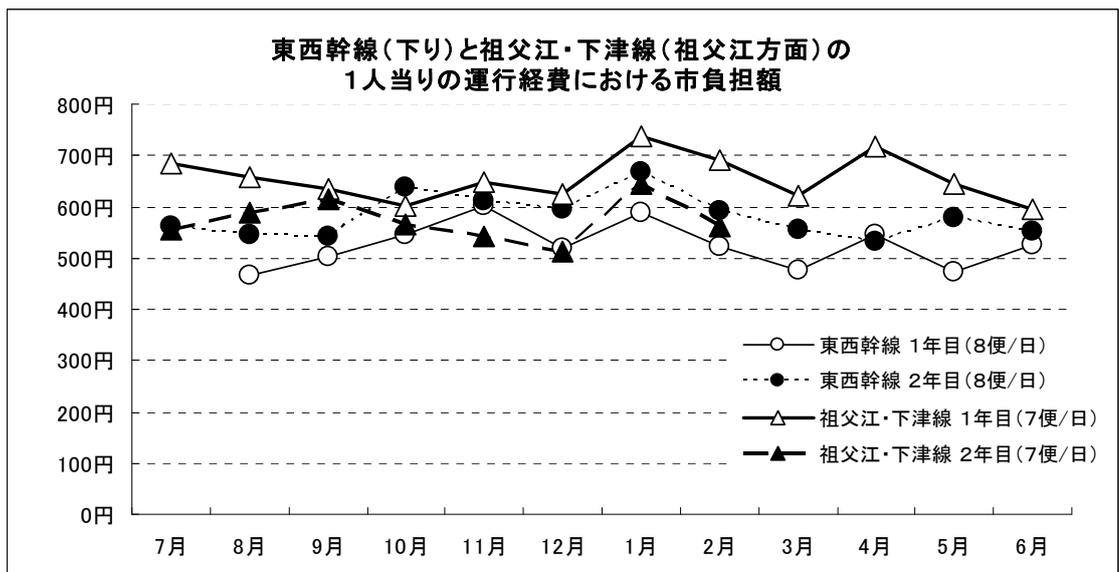
東西幹線 下りの市負担額は、運行1年目の平成20年11月の601円が最も高く、平成21年1月の590円を除いて、他の月は470円～540円前後で推移しています。

同線の2年目においては、平成22年1月の667円を最高額として590円を上回る月が5回あり、他の月は530円～570円前後で推移しています。

祖父江・下津線 祖父江方面の1年目は、東西幹線 下り1年目より利用者数が減少したこと、また、1日1台当りの運行経費が増額（4～6%）したことから、平成23年1月の736円を最高額として700円を上回る月が2回あり、他の月も600円～690円前後で推移し、東西幹線 下りの1年目及び2年目と比較して若干高額となっています。

しかしながら、同線の2年目においては、利用者数の増加によって600円を下回る月が6回あります。

グラフ6



17 ページのグラフ7は、南北幹線 上り（ヨシヅヤ平和店⇒国府宮駅）、平和・千代田線 市民会館・中央図書館行き（平和支所・らくらくプラザ⇒市民会館・中央図書館）及び大里循環線の市負担額を比較したものです。

南北幹線 上りは、1年目の平成21年2月の1,964円を最高額として1,700円を上回る月が5回あります。

同線の2年目においては、平成22年1月の2,068円を最高額として1,700円を上回る月が8回あり、全体として1年目よりも高額となっています。

平和・千代田線 市民会館・中央図書館行の1年目においては、平成23年5月の1,610円を最高額として1,500円を上回る月が3回あります。

また、同線の2年目においても平成23年10月の1,542円を最高額として1,500円

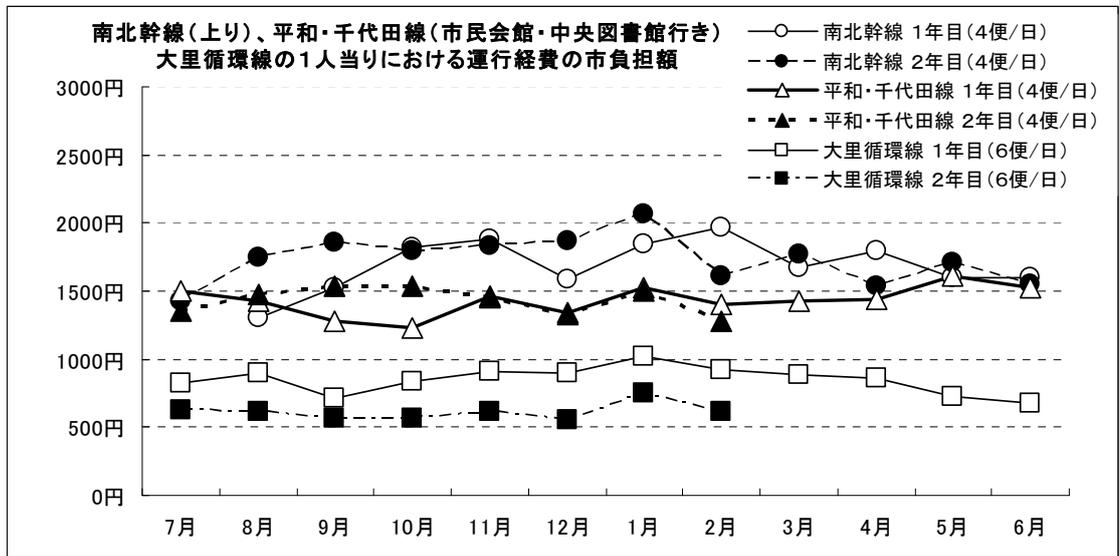
を上回る月が既に3回あります。

平和・千代田線 市民会館・中央図書館行きの市負担額は、南北幹線 上りの市負担額と比べて若干少額となっていますが、平和・千代田線の1日1台当りの運行経費が南北幹線の同経費より減額(2~18%)となっていることが要因の一つです。

大里循環線の市負担額は、前述のように祖父江・下津線と一部区間を重複して運行していることから、単純に南北幹線と比較できるものではありませんが、利用者が多くなっているため、平成23年1月を除いて1,000円を下回る状況が続いています。

なお、同線の2年目においては、平成23年9月が570円、10月が568円、12月が548円と、600円を下回る月が3回ありますので、今後、運行路線の見直しを検討するにおいて参考にするべき点であると考えています。

グラフ7



18 ページのグラフ8は、南北幹線 下り(国府宮駅⇒ヨシヅヤ平和店)、平和・千代田線 千代田・平和方面(市民会館・中央図書館⇒ヨシヅヤ平和店)及び大里循環線の市負担額を比較したものです。

南北幹線 下りは、運行1年目の平成20年11月の1,823円を最高額として1,700円を上回る月が3回あります。

同線の2年目においては、平成22年5月の2,042円を最高額として1,700円を上回る月が10回あり、全体として1年目よりも高額となっています。

平和・千代田線 千代田・平和方面の1年目は、平成22年11月の1,893円を最高額として1,700円を上回る月が2回あります。

また、同線の2年目においても、平成24年1月の1,654円を最高額として1,500円を上回る月が既に4回あります。

平和・千代田線 千代田・平和方面の市負担額は、南北幹線 下りの市負担額と比較すると少額となっていますが、これは運行便が1便多い4便であること、また、平和・千代田線の1日1台当りの運行経費が南北幹線の同経費が減額(2~18%)となっていることが要因です。

大里循環線は循環型路線であり、グラフ7と同じデータを掲載しているため、説明は省略いたします。

グラフ8

